



平成 29 年度

事業報告

1. 概要

- ・平成 29 年度は、社会福祉法が改正され社会福祉法人の法人制度が、大きく変化した年であった。放泉会としても、法人組織のガバナンスの強化、事業経営の透明性、財務規律の強化、地域における公益的な取組を行った。特に、いわゆる内部留保といわれる財産については、特養さわらび苑の新型特養への移行事業へ再投資を行っている。
- ・昨今の福祉サービスの不祥事に対し、法人としても法令遵守責任者の下、各管理者が運営基準、人員基準等を習得しコンプライアンスに努めた。
- ・在宅部門においては、居宅介護支援にて積極的な人事異動を行い、活性化を図った。居宅介護支援は、幾分の成果が見られたが、三瓶地区の伸び悩み（通所さんべ含む）が見られた。地元地域の事業所として、今後一層の利用ニーズに対応しなければならない。

2. 地域貢献活動状況

(1) 地域づくりの取り組み

① 介護体験実習の提供

- ・北三瓶中学校介護体験学習
- ・邇摩高等学校介護実習
- ・出雲西高等学校介護実習
- ・東部高等技術校介護実習

② 地域づくりへの参加

- ・さわらびシンフォニックバンド 長久さくら祭、長久、志学、池田地区文化祭（結成 10 周年記念演奏会）への出演
- ・職員派遣 各地区清掃活動（クリーン三瓶・施設周辺道路清掃作業年 3 回）及び地区行事（田植え・稲刈り作業）等への参加
- ・地域デイサービス（池田地区）へ職員を毎週派遣
- ・地元小学校児童の諸行事参加の為の送迎
- ・さひめ女性の会等のボランティアの受け入れ、職員の加入

③ 地域における公益的な取り組み

- ・生活困窮者へ対する利用者負担軽減
- ・地域での介護予防教室の開催

④ 地域雇用の確保

- ・地域雇用の促進 地域からの積極的な職員採用
- ・安定的雇用確保にて正規採用、定年延長
- ・障害者雇用の促進
- ・法人独自の准看資格取得制度
- ・育児休暇取得促進

⑤ その他

- ・日本財団 夢の貯金箱（自動販売機設置）

3. 理事会開催状況

(1) 第197回役員会

日時 平成29年5月27日(火)

場所 さわらび苑 サンプルーム

報告 建設委員会より

議題 第1号議案 平成28年度事業報告の承認について
第2号議案 平成28年度一般会計決算の承認について
第3号議案 監査報告について
第4号議案 社会福祉充実残額算定結果並びに社会福祉充実計画について
第5号議案 社会福祉法人等退職金規程の制定について
第6号議案 社会福祉法人放泉会役員等報酬規程の一部改正について
第7号議案 社会福祉法人放泉会経理規程の一部改正について
第8号議案 社会福祉法人放泉会理事、監事の選任について
その他

(2) 第198回役員会

日時 平成29年6月14日(水)

場所 さわらび苑 サンプルーム

報告 建設委員会より

議題 第1号議案 社会福祉法人放泉会の理事長・業務執行理事・内部経理監査担当者の選任について
第2号議案 社会福祉法人放泉会評議員の候補者の選任について
その他

(3) 第199回役員会

日時 平成29年7月31日(月)

場所 さわらび苑 サンプルーム

報告 建設委員会より

池田地区連合自治会長会議にて、さわらび苑移転計画について
島根県施設整備補助金について
議題 第1号議案 不動産の寄付申し出の取り扱いについて
第2号議案 さわらび苑移転建設予定地の地質調査について
第3号議案 社会福祉法人放泉会監事監査規程の一部改正について
その他

(4) 第200回役員会

日時 平成29年9月12日(火)

場所 ゆうイングさわらび サンプルーム

報告 建設委員会より

議題 第1号議案 不動産の贈与(稲積邸の土地・建物)について
その他

(5) 第201回役員会

日時 平成29年10月24日(火)

場所 ゆうイングさわらび サンプルーム

報告 なし

議題 第1号議案 不動産の贈与(稲積邸の土地・建物)による財産取得の承認について
第2号議案 社会福祉法人放泉会監事監査実施規程の改定について
第3号議案 社会福祉法人放泉会育児・介護休業貴族の一部改正について
第4号議案 平成29年度一般会計資金収支補正予算(第2号)の承認につ

いて

その他

(6) 第 202 回役員会

日時 平成 29 年 11 月 14 日 (火)

場所 ゆうイングさわらび ミーティングルーム

報告 監事定期監査並びに内部経理監査報告について
建設委員会より

子ども・子育て支援事業計画に関するヒヤリングについて

地域貢献事業の実施状況について

議題 第 1 号議案 平成 29 年度通所介護さんべ会計資金収支補正予算 (第 1 号)
の承認について

第 2 号議案 社会福祉法人放泉会コンプライアンス規程の制定について

第 3 号議案 社会福祉法人放泉会ハラスメント防止規程の改正について

その他

(7) 第 203 回役員会

日時 平成 29 年 12 月 19 日 (火)

場所 稲積さわらび庵

報告 平成 29 年度実地指導について

議題 第 1 号議案 社会福祉法人放泉会育児・介護休業等に関する規則の一部改正
について

第 2 号議案 社会福祉法人放泉会職員元日出勤職員に対する特別手当支給に
ついて

第 3 号議案 さわらび苑移転建築設計監理費について

その他

(8) 第 204 回役員会

日時 平成 30 年 1 月 10 日 (水)

場所 G I N Z A N

報告 平成 29 年度実地指導の実施結果について

議題 第 1 号議案 さわらび苑移転新築設計監理委託契約の締結の承認について
その他

(9) 第 205 回役員会

日時 平成 30 年 3 月 12 日 (月)

場所 ゆうイングさわらび ミーティングルーム

報告 なし

議題 第 1 号議案 さわらび苑移転新築に伴う土地取得について

第 2 号議案 平成 29 年度一般会計資金収支補正予算 (第 3 号) について

第 3 号議案 社会福祉法人放泉会経理規程の一部改正について

第 4 号議案 社会福祉法人放泉会理事職務権限規程の制定について

第 5 号議案 社会福祉法人放泉会インターネットバンキング利用規程の制定
について

第 6 号議案 新規職員採用について

その他

(10) 第 206 回役員会

日時 平成 30 年 3 月 29 日 (木)

場所 ゆうイングさわらび ミーティングルーム

報告 さわらび苑新築移転について

- 島根県補助金申請進捗状況について
平成 29 年度一般会計資金収支決算見通しについて
- 議題 第 1 号議案 平成 29 年度一般会計資金収支補正予算（第 4 号）について
第 2 号議案 平成 30 年度事業計画の承認について
第 3 号議案 平成 30 年度一般会計資金収支予算の承認について
第 4 号議案 社会福祉法人放泉会理事の増員についての承認について
その他

4. 評議員開催状況

(1) 第 68 回評議員会

日時 平成 29 年 6 月 14 日（水）

場所 さわらび苑 サンプルーム

報告 建設委員会より

- 議題 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告の承認について
第 2 号議案 平成 28 年度一般会計決算の承認について
第 3 号議案 監査報告について
第 4 号議案 社会福祉充実残額算定結果並びに社会福祉充実計画について
第 5 号議案 社会福祉法人等退職金規程の制定について
第 6 号議案 社会福祉法人放泉会役員等報酬規程の一部改正について
第 7 号議案 社会福祉法人放泉会理事、監事の選任について
その他

(2) 第 69 回評議員会

日時 平成 29 年 9 月 20 日（水）

場所 ゆうイングさわらび サンプルーム

報告 建設委員会より

- 議題 第 1 号議案 不動産の贈与（稲積邸の土地・建物）について
その他

(3) 第 70 回評議員会

日時 平成 30 年 3 月 30 日（金）

場所 ゆうイングさわらび ミーティングルーム

- 議題 第 1 号議案 平成 29 年度一般会計資金収支補正予算（第 4 号）について
第 2 号議案 平成 30 年度事業計画の承認について
第 3 号議案 平成 30 年度一般会計収支予算の承認について
第 4 号議案 社会福祉法人放泉会理事追加就任の承認について
その他

5. 評議員選任・解任委員会

日時 平成 29 年 6 月 22 日（木）

場所 ゆうイングさわらび 会議室

- 議題 第 1 号議案 社会福祉法人放泉会の評議員の辞任に伴う補充について
その他

6. 監査等の状況

(1) 放泉会監事監査

- ①平成 29 年 5 月 25 日（木）午前 9 時～午後 4 時 30 分
平成 28 年度の業務及び会計の執行状況について
さわらび苑 会議室

安藤好美、前田正雄両監事

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当、各施設長、各部課長、各担当者

②平成 29 年 11 月 6 日（月）～11 月 7 日（火）

定款 20 条及び監事監査実施規程に基づく監査

11 月 6 日（月）午前 9 時～午後 4 時 さわらび苑 サンルーム

11 月 7 日（火）午前 9 時～午後 4 時 ゆうイングさわらび ミーティングルーム

前田正雄、田中昭一両監事

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当、各施設長、各部課長、各担当者

(2) 行政実地指導

①平成 29 年 9 月 15 日（金）午前 10 時～午後 2 時

サンチャイルド長久さわらび園

石見スタッフ上席調整監 瀧本正樹、子ども・子育て支援課主任主事 三代雄太

大田市 安田里海、奥 大作

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当、園長、副園長、事務長

前田正雄、田中昭一両監事

②平成 29 年 12 月 5 日（木）午前 10 時～午後 3 時

さわらび苑

石見スタッフ上席調整監 瀧本正樹、指導監査監 福祉祐子、主任 仁井祐樹

大田市役所指導監査係長 浅原 豊 他 1 名

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当、各施設長、各部課長、各担当者

前田正雄、田中昭一両監事

③平成 29 年 12 月 6 日（水）午前 10 時～午後 3 時

ゆうイングさわらび

石見スタッフ上席調整監 瀧本正樹、指導監査監 福祉祐子、主任 仁井祐樹

大田市役所指導監査係長 浅原 豊 他 1 名

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当、各施設長、各部課長、各担当者

④平成 29 年 12 月 7 日（水）午前 10 時～午後 3 時

デイサービスセンターさんべ

石見スタッフ指導監査監 福祉祐子、主任 仁井祐樹

大田市役所指導監査係長 浅原 豊 他 2 名

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当、各施設長、各部課長、各担当者

(3) 内部経理監査

①平成 29 年 5 月 22 日（月）、23 日（火）

全拠点

中間内部経理監査担当

7. 役員等の研修状況

(1) 平成 29 年 7 月 7 日（金）

平成 29 年度社会福祉法人指導監査説明会役員研修会

大田市民センター

前田正雄、田中昭一両監事、中間内部経理監査担当理事、瓜坂常務理事

(2) 平成 30 年 1 月 10 日（水）

社会福祉法人監事研修会

浜田市

前田正雄、田中昭一両監事、中間内部経理監査担当理事

8. 苦情相談

事業所名	内 容	対 応
さわらび苑	なし	なし
グループホーム	なし	なし
DSさんべ	なし	なし
ゆうイング	なし	なし
DS ゆうイング	なし	なし
居宅さわらび	なし	なし
サンチャイルド 長久さわらび園	・園内での負傷に伴う、園児の対応 及び保護者への報告等が不誠実で ある。	・訪問し、謝罪の上、園児・ 保護者の気持ちを尊重し た対応をすることを伝える。
ゆうゆう学童クラブ	・他の保護者と公平性を欠いた職員対 応がある。	・謝罪し、今後ないようにす る事を伝える。

9. 事業所別稼働率

事業所名	目標値	実稼働率
さわらび苑（契約）	97%	97.1%
さわらび苑（短期）	一日1名	1.4名
グループホーム	99%	99.4%
デイサービスセンターさんべ	65%	53.4%
居宅さわらび	介護90名/月	99.7名
ゆうイング（契約）	97%	99.1%
ゆうイング（短期）	75%	82%
デイサービスセンターゆうイング	88%	83.3%
サンチャイルド	120名/月	113%
学童クラブ	通常期40名	32名

〈特別養護老人ホームさわらび苑(空床利用型短期入所生活介護事業所)〉

〈事務部門〉

1. 施設の顔としての意識をもち、来苑者への安心感、信頼感を与えることができるよう取り組むことが出来た。
2. 分業することにより、規程に沿った業務遂行に努めたが、期日を過ぎることもあり、今後は規程の遵守のもとに書類等の提出をしていく。
3. 来苑者並びに職員間においても節度ある対応に心掛けるも、他者が不快に思う部分もあり、反省すべき点であった。
4. 備品等の管理は、概ね行うことが出来たが、環境整備については事務部門として、率先しての取り組みが不十分であった。

〈相談員部門〉

1. ユニットケアに向けての個別ケアへの取り組みとしてヘルパー等を中心に行なったが、まだ個別ケアということに対して、浸透していないところもあり、来年度はより進めるために、検討課題を整理し、具体的に取り組んで行く。
2. 退所後の次期入所者が、すぐ決まらないことがあり、昨年度に比べ利用率が下がったので、来年度は、入所判定委員会にて入所希望者を早めに決めて置き、稼働率を上げていく。
3. 今年度もボランティアを積極的に受け入れた。また、各種関係機関との連絡調整は問題もなく、スムーズな連携であった。

〈介護支援専門員部門〉

1. 担当者会議の家族参加、入居者参加は上半期（4～9月）43件/63件、下半期（10～3月）36件/62件だった。2月は感染症予防対策の為、家族参加を中止とした。担当者会議の自宅開催はなかったが、担当者会議を通して、自宅への外出支援につなげるケースもあった。
2. 看取りケアについては、毎月担当者会議を行い、見直しを行ない、調子が良いときは散歩に出たり等、ケアプランに生かせるようにした。
3. 介護課でのユニット型特養を意識した少人数グループ編成は今年度出来なかった。ヘルパーの気づきを個別ケアに生かせるようにした。
4. 短期入所生活介護（ショートステイ）については、自宅開催での担当者会議を通して、ご利用者の状態を把握し、自宅と同様に統一した介護が行えるようにした。

〈看護部門〉

1. 健康管理
1日2検の健康チェックを行い、朝礼時の夜勤報告、ミーティングにて情報を共有し、異常の早期発見、早期治療を行い、入院患者数、入院期間の短期化に繋げた。入院患者数26人、1ヵ月以上の入院6人、死亡23件。

2. 看取り

- ・看取り期の状態変化については、面会の都度、また、遠方の家族については電話にて細目に報告した。その際、家族より生活歴や希望を伺い、全職種で、より充実した看取りケアに取り組んだ。(息子さんのギター、CDで好きな曲、入浴等々)
- ・より質の高い看取りに繋げる為、看取り後には家族の思いを確認し、全職種での振り返りカンファレンスを行なった。

3. 嘱託医との連携と質の向上

- ・通常と異なる状況の際には早めに報告し、回診や受診時には嘱託医からの情報、指示を受けてケアに繋がった。

4. 空きベッドの活用

- ・入院による空きベッドがある際には、医療ケア（褥瘡他）、認知症等、ご利用者のショートを積極的に受け入れた。

5. 感染症

- ・インフルエンザは、職員5人、職員家族11人の発生があったが、ご利用者への感染発生はなかった。
- ・職員会議で委員会の勉強会、嘱託医、産業医からの感染情報、予防対策を受け、各自で予防意識を高めた。
- ・12月中旬ごろより大田市内で多数のインフルエンザの発生があり、外部からの感染防止の為、面会制限を行ったことで、入居者への感染を防ぐことが出来た。

<機能訓練指導員>

1. 他職種との連携を図り日常生活の中で機能改善に繋がるよう努める。残存機能の維持・向上を目指す。
継続した日常生活動作にて、残存機能の維持につながった。
2. 日常的なケアに関わり、生活意欲の向上・楽しみに繋げる。
訓練計画内容のみの関りではなく、日常のケアにかかわり、ご利用者のニーズをきくことができた。
3. 統一した介助方法の為、資料、写真の作成を行い、他部門への情報共有に努めた。

<介護部門>

1. ユニットケアに向けて

- ・個別ケアを実践する為に、ヘルパーとして状態把握に取り組んだが、ヘルパーによって意識の格差あり、今後の課題を残した。
- ・ユニットケアサークルを立ち上げたが、ユニットケアに向けての勉強会が開催できず、また、24時間シートの作成、少人数のグループ編成も至らなかった。

2. 看取りケア

- ・看取りに入られる前、ご家族や多職種との連携を図り、身体的、精神的苦痛を緩和できるように、また、ご希望に添えるように援助を行なった。看取り後はミーティング等の時間利用して振り返りを行なった。

＜栄養・調理部門＞

1. 献立内容、調理

- ・入居者の要望に応えバイキングにて刺身を提供。又季節行事に合わせて食事の場所を変えたり、デザートを手作りするなど食事を通して生活に楽しみを持っていただけるようにした。誕生日には希望を聞き、寿司やケーキなど好みのものを提供し喜んでいただいた。
- ・ほぼ毎月委託業者との話し合いを行い、入居者の声、献立内容、形態、味付け、要望、検食結果を伝え、献立内容の改善につながるようにした。デイサービス職員による検食も実施し、検食結果や利用者の摂取状況も伝えた。
- ・食思不良者や看取り食の利用者には本人や家族の希望を聴き、多職種と連携して、身体状態に応じてその都度対応した。

2. 安心・安全な食事の提供

- ・個々の食事形態、療養食の指示、栄養補助食品、アレルギー等の代替え食を確実に提供できるよう、職員それぞれが確認し乍ら作業を行い、又複数で点検を行った。
- ・異物混入については細心の注意をはらい、盛り付けを行った。形態の配膳の間違い、アレルギー除去食については特に間違いの無い様、指示書の確認・声がけにて確実に提供するようにした。

3. 栄養ケアマネジメントの実施

- ・平成 29 年 12 月の県の実地指導監査を受け、栄養ケア計画を多職種協働で作成しているのが一目でわかるように、関係職種の押印欄を設けて書式変更をし、計画を作成した。できるだけ医師との連携を密にするよう努めた。栄養ケア委員会を毎月開催し、利用者個々の栄養状態や体重の増減、食事摂取状況等を提示し、低栄養状態の利用者について検討を行い、栄養状態の改善や維持等の検討を行い、さらにミーティング等で相談し経口維持につながるよう努めた。
- ・定期的に低栄養状態のリスク判定を行った。低栄養状態のリスクでは、低リスク者 14.3%、中リスク者 62.3%、高リスク者 23.4%で、前年度とほぼ同割合であった。血清アルブミン値のリスクでは、低リスク者 41.6%、中リスク者 45.4%、高リスク者 10.4%で、低リスク者は前年度の割合 30.8%より増加した。体重減少のリスクでは、低リスク者 49.4%、中リスク者 33.7%、高リスク者 14.3%で、約半数の入居者は体重の維持ができた。

4. 衛生管理

- ・調理、食品の保存は大量調理マニュアルに基づき行った。
- ・調理員には栄養課会議や施設内会議にて衛生指導を行い、個々の衛生管理、健康管理、家族の健康管理も含め、衛生に対する認識を高めた。

＜グループホーム＞

1. 各居室には馴染みの家具を置いたり、家族写真、誕生カード等を飾り、家庭に近い環境に努めた。
2. ケアプラン作成には、本人の気持ちを引き出す事が不十分だった。担当者会議を充

実したものにし、出来るだけ本人の思いを反映したものにしてい

3. マニュアルに沿い、感染予防、食中毒予防に努めた。インフルエンザへの感染はあったが、蔓延や重度化することなく、対応できた。
4. 運営推進会議開催に合わせ、2ヵ月に1回のグループホーム便りが発行できた。家族面会時には話しやすい雰囲気作りをし、安心感の提供に努めた。
5. ボランティアとの交流や文化祭等へ、入居者の方と出かけ、地域との交流に努めた。
6. 運営推進会議には、ご家族順番に参加してもらい、グループホームの活動や地域との関わりを知ってもらうことができた。

＜デイサービスセンターさんべ＞

1. 各種行事への参加、事業所内での家事等の役割をもってもらうことで、生活機能の改善に繋げることができた。また、生活機能改善に向けての個別機能訓練も実施することができたが、加算取得するためのプラン作成には課題が残った。
2. ラヂウム鉱泉での入浴を売りとして、利用促進に繋げる一方で、週に1回、民家改修型施設を利用し、サービス提供を行なった。
3. 感染症発症期には、ご利用者や職員家族の健康管理に努め、発症はなかった。
4. 週に複数回の利用が多い中で、他のサービス利用、入院、入所等により、稼働率の変動が大きかった。

＜特別養護老人ホームゆうイングさわらび(併設型短期入所生活介護事業所)＞

＜事務部門＞

1. 施設の窓口として他部門と連携し、入居者、ご家族に心地よいサービスができるよう努めた。
2. 事務室を友友会等で開放し、国道9号線、山陰本線やサンチャイルドの活動的な風景を楽しんでいただいた。
3. 会計については、専従オペレーター導入から1年が経過し業務もスピードアップが図れ、30年度から全事業所を担当するに至る。
4. 玄関ロビーの寛ぎスペースについては、お抹茶を楽しむ会、友友会等で稼働していた。年度末で設置のソファは撤去したが、景観を楽しむ場として今後も活用したい。

＜相談員部門＞

1. 稼働率について、契約入所では、ロングショートからの入所、またそれ以外にも入所待ちの方の状態把握を行いスムーズに入居者の確保ができた。また、短期入所においてもロングショートと定期利用の調整を行ったことに加え、感染症の苑内での流行がなかったため冬季の短期入所受け入れが通常通りできた。
2. ご家族及び各関係機関との調整について、面会時等でご家族とコミュニケーションをとりつつ、各関係機関とともに連絡を密に取ることが出来た。
3. 各事業所の介護支援専門員と密に連絡調整をすることにより、短期入所の稼働率

アップにも繋がった。

4. 居室内の景観と採光の恵みを得られる取り組みについては、徐々に取り組んではいたが、地震時に窓ガラスが割れる等防災上の理由により再検討を要する。
5. 友友会で事務室を開放することにより入居者に窓外の動きのある眺望を楽しんでいただく機会を持った。

<介護支援専門員部門>

1. 担当者会議 68 件開催中、40 件に本人、家族の参加があった。参加率は 58.9% であり、目標の 60% にはあと一歩であった(冬季(1~2月)の面会制限の影響も有))が、入所前の生き方や生活観のアセスメントが深まり、外出支援や家族による散髪などに繋げる事が出来た。自宅での担当者会議は希望がなく開催していない。
2. 主治医からの指示により看取り加算の算定を行った。終末期を迎えた方のこれまでの生き方や生活観、家族の意向に添える様に、都度話し合いを行い、29 年度は 2 件の算定であった。
3. 担当者会議内容をミーティングにて発表、また不在の者に対しては連絡ノート、ホワイトボードにて情報の共有を図った。
4. 短期入所利用者の居宅での担当者会議要請には可能な限り参加した。その際には生活歴や短期入所サービス利用時以外の状態把握に努め、短期入所サービスの役割を再認識した。在宅生活を支えるチームの一員として、本人、家族、ケアマネジャー、デイサービス、ヘルパー等との情報共有を図った。

<看護部門>

1. 喀痰吸引、在宅酸素、褥瘡処置の必要な(医療連携強化加算の対象者含む)方の受け入れを積極的に行った。食思不良、嚥下困難による栄養状態の悪い方、脱水の方にはその人に合った食事形態や介助方法を工夫し、自力摂取できるまで回復された方もあった。新たに心電図計を購入する等、嘱託医の中島先生の指導を受け、職員の知識・技術を習得に心がけた。
2. 平成 29 年度死亡退苑 10 名、内 9 名の方を苑でお見送りした。看取り加算対象者は 2 名。嘱託医から家族への説明時には、看護師が立ち会い、家族の気持ちに寄り添いながら、安らかな最期を迎えられるように多職種協働で支援した。今後、施設での看取りが増えていくことが予想されるため、対応後に振り返りを行い、看取りに対しての意識を高めている。
3. 1 年間の入院の述べ人数 8 名。早い方で 10 日間、長い方は 2 カ月の入院。入院期間が長期にならない様に、退院許可が出たら速やかに退院の受け入れを行っている。感染症は、市内で平成 30 年 1 月中旬~インフルエンザ A 型、B 型が流行。嘱託医の中島先生より、感染予防の為、面会制限の指示あり、面会に来られた方に玄関で看護師が説明し、ご理解頂き協力を得た。この期間、家族には利用者の様子を電話で報告した。職員及び職員家族がインフルエンザに感染した時には一定の出勤停止期間を設け対応した。感染対応を徹底し、入居者のインフルエンザ感染ゼロに繋がった。

<機能訓練部門>

1. 月に一回来られる柔道整復師に、訓練計画評価対象者の身体の状態、次回の訓練内容を相談することで、個別のニーズに対応できるよう努めた。入居者本人の「歩きたい」「立てるようにになりたい」「痛みが楽になるように」という気持ちを目標とし、訓練の実施、計画の作成を行った。訓練中は「良くなっている」等の前向きな励まし、実施内容の丁寧な説明を心掛けた。また、お元気サロンや廊下での訓練時、他部門の職員が積極的に声掛けをし本人のやる気に繋がった。監査時に監査官より、認知機能に問題の無い方は、計画書のサインを本人から頂いても良いとアドバイスがあった。
2. 歩行訓練時、本人と相談し希望があれば、テラスや中庭、玄関前等で歩行を行った。その際に季節の植物や景色、展示物を見ることで喜びを感じ、自ら植物の種類、茶器、季節、自身の思い出等を積極的に語る場面があった、生活意欲、訓練意欲の向上に繋がった。また、気候が良い時は、歩行訓練を行わない方の関節可動域訓練やリラクゼーションマッサージも屋外で実施し喜ばれた。
3. 介護職員と相談しポジショニングを検討した。新しいポジショニングの写真をファイルに綴る等し、全職員の理解を得た。担当者会議に参加したり、訓練内容に介護職員の協力（身体をさする等）を盛り込み多職種での協同を図ったが、計画していた勉強会は実施できなかった。

<介護部門>

1. ・意思疎通可能な入居者は、少人数対応する事で、希望時に個別の歩行訓練、脳トレ等を行ったり、排泄介助も待ち時間が少なく行えた。
 - ・転倒リスクの高い方への対応もしやすく事故の減少に繋がった。
 - ・日中の職員をブロック別に固定配置とし、なじみの関係を持つ事で「昔の趣味の編み物をやりたい」と入居者が自主的に希望したケースもあった。
 - ・意思疎通が困難な方へも、積極的に声をかけ、本人の好きだった音楽を流すなどし、わずかな表情の変化やしぐさにも目を向けるようにした。
 - ・ヘルパーステーション内のホワイトボードに入居者の状態、注意点等、また業務内容を掲示する事で、伝達ミスが減り、介助方法の統一化を図る事が出来た。
2. ・多職種と連携をとり、本人の好きな食べ物を提供したり、体調が安定している際には入浴、または足浴・手浴を行い、身体の保清に気を付けた。状態に応じて二人介助を行い、痛みの緩和に努めながらオムツ交換、体位交換等を行う事が出来た。
 - ・家族が安心して面会できるよう生活環境を整え、面会時には普段の様子を伝え、「お母さん、目を開けたりするんですね」など家族が喜ばれる姿に、職員の意欲も高まり、看取りに対して取り組む姿勢の向上に繋がった。
3. ・ユニットリーダー研修、老施協の全国大会へ参加。ICF、伴走型介護等の最新の介護状況等の復命をすることにより知識技術の向上に努めた。施設内勉強会はミーティングを利用し、職員同士で移乗等の勉強会を行った。外部での研修・施設内勉強会を増やして行くことが課題である。

＜栄養・調理部門＞

1. 食事提供

- ・委託業者のシステム・献立等にも慣れ、スムーズな食事提供ができるようになった。ご利用者の体調に配慮した献立の対応も出来るよう心掛けたが、偏った献立が続いたため、今後検討していく必要がある。
- ・農家等からの旬の野菜等の頂き物は献立変更で提供し、季節感を味わっていただくことも出来た。また、委託業者との会議を通してこちらの意向も取り入れられるようになり、食事に満足される御利用者の声も聴かれるようになった。

2. 栄養ケアマネジメント

- ・島根県実地指導監査を受け、栄養ケア計画書が多職種協働で作成されているのが一目で分かるよう書式の変更を行い、関係職種の押印欄を設けた。
- ・栄養ケアマネジメントにおいて、体重は御利用者の約6割が維持または増加がみられた。低栄養状態のリスクにおいては、年間平均で低リスク者：14.1%、中リスク者：62.6%、高リスク者：23.3%であった。高リスク者の割合は年間を通してあまり変化がなかったが、中リスク者の中から高リスク者に移行した御利用者もおられ、中リスク者の割合は減少した。療養食加算は、家族の同意を得て、新たに3名の算定を開始した。

3. 感染症・食中毒予防、異物混入等安心・安全な食事提供

- ・感染症・食中毒の予防では、日々の職員の体調管理が出来、自覚をもって勤務することが出来、予防に繋がった。
- ・委託業者となり、異物混入は少なくなったが、危険性の高いものではないが、確認不足によるものが数件あった。

＜デイサービスセンターゆうイング＞

1. マンネリ化しつつあるデイサービスを一掃すべく、大幅な人事異動が行われ、新たなデイサービスとしてスタート出来た。新しい職員の視点を大切にし、記録法の変更・給食での職員配置や盛り付け方・デイルーム内のレイアウト等を実施した。
2. 稼働率アップを目指しリハビリに力を入れていくことについて、『訓練』の計画書が追い付いていなかった。訓練は実施だけではなく計画書作成あつての加算算定なので個別機能訓練Ⅰを9月に廃止し、個別機能訓練Ⅱのみの算定とした。この訓練Ⅱが自宅での生活を想定した訓練なので、計画書・訓練実施をより充実させる事ができた。
3. 相談員の業務を事業所内だけとはせず、地域との連携にも取り組むということは出来なかった。事業所内だけの業務に留まってしまった。
4. 中重度利用者の受け入れについては、都度登録利用者を確認しながら職員間で検討し前向きに受け入れる事ができた。
5. 他事業所との連携について、ご家族・居宅介護支援事業所・訪問看護・訪問介護等と連絡を取り合い、サービス提供の向上を図った。
6. 法令遵守に添った記録の整備に努めることについては、簡素化・いつでも記録をし

やすいように手書きからパソコンに変更し、記録の充実を図った。

〈居宅介護支援センターさわらび〉

1. ご利用者、ご家族との信頼関係の構築を第一として、相談、訪問に当たった。出来る限り迅速な対応を行った。
2. 医療機関との連携を中心に、他事業所、民生委員とも連携、情報の共有に力を注いだ。通いの場づくり事業を通して、町づくりセンターとの顔の見える関係へのきっかけとすることが出来た。
3. 介護保険内のサービスだけでなく、保険外のサービス（近所、民生委員、主治医、民間サービス等）も、計画書に盛り込むようにした。必要な場合には担当者会議にも出席してもらった。
4. 課題整理総括表を、新総合事業・要支援の方に使用し、根拠のあるプラン作りに繋げることが出来た。要介護の方にも使用して行くことが今後の課題。
5. 事業所集中減算は理由書を提出し回避出来た。

〈サンチャイルド長久さわらび園〉

1. 保育園の運営について
保育園入園については、4月当初定員を1名下回ってのスタートだったが、その後0歳児の継続的入園が続き、前年度並みの園児数となった。保護者の就労支援を踏まえ、これまで通り基本方針に沿って、必要とする家庭が利用できる支援を目指して事業を進めた。30年度より保育園保育指針が改定となるため、改定に向けた取り組みを行った。保育園における自己評価を実施し、保育の質の向上に努めた。職員処遇については、29年度も保育士等処遇改善加算が実施され職員の意欲向上に繋がった。
2. 保育の実施
 - ・ 0歳児から5歳児まで通常保育の実施
年間延人数 1,558人（H28 1,560人）、月平均 130人（H28 131人）
※充足率（H30.3.1付）113%（H29.3.1 113%）
 - ・ 途中入所への弾力的対応（定員 120人）
4月当初 119人で、途中入所 17人の合計 136人の受入を行った。
 - ・ 病後児保育の実施
年間延べ利用人数 60人（H28 66人）
 - ・ 延長保育の実施
年間延べ利用人数 69人（H28 78人）
 - ・ 一時保育の実施
年間延べ日数 59日（H28 17.5日）
3. その他
 - ・ 環境問題に対する興味や関心を持ってもらうため、わかりやすいエコのお話会、

絵本の読み聞かせ、エコキャップ回収などを引き続き進めた。

- ・牛乳出前講座を通じて、県産牛乳に親しむと共に、「命の尊さ」について関心を持つことができた。
- ・1年を通しての「三色運動」をもとに、親子クッキングの開催など、園児や保護者が食の大切さを感じ、考えられるよう取り組んだ。
- ・法人の老人ホームの利用者との交流により、敬愛の心をはぐくむことができた。

◇主な保育行事及び活動

4月	入園式・進級式、保護者会総会、はじめましてなかよし会、お弁当の日、
5月	端午の節句（箱寿司ボラ）、野菜苗植え、劇団バク公演、親子読書開始、交通安全指導（大田警察署）、親子遠足（アクアス）
6月	さつま芋苗植え、田植え、歯科検診、歯科衛生指導、子育て講演会（運動あそび）、保護者会主催救急法講習会（大田消防署）、土江子ども神楽
7月	ミニエコ講座、プール開き、七夕会（ほっとな会交流）、保護者会主催サンチャイルド祭り、長久小3年生との交流、マシュー先生お別れ会
8月	大田天領さん参加、長久小1年生との交流、いなぎ農園梨狩り、プール納め、お泊り保育
9月	祖父母参観、稲刈り、牛乳出前講座（JA他）、JR特急列車の旅
10月	芋掘り、園内運動会、秋の遠足、歯科衛生指導、園児健康診断、小学校就学前健診、長久町民運動会参加
11月	長久町文化祭出演・展示、お魚さんありがとう（マニワ鮮魚）・池田保育園との交流、お弁当の日、川合町中山農場遠足、笠岡琴瑛会ピアノ寄贈、保育研究会主催子育て応援フェスティバル
12月	餅つき会（長和会）、クリスマス会、ほっとな会交流、サンチャイルド発表会、煤払い、
1月	鏡開き、七草粥、ふれあい長久会、保護者会主催・親子ふれあい遊び、きらきらチャレンジ大会、長久小5年生との交流、長久小学校給食試食会
2月	節分会、修了記念写真撮影
3月	ひな祭り会、ヤマハおでかけコンサート、お別れ会・SSB卒園おめでとうコンサート・お弁当の日、新入園児・在園児健康診断、就学前交通安全指導（大田警察署）、レストランサンメッサ、保護者会総会、卒園式
定例行事等	身体測定、避難訓練、誕生会、マシュー先生・ゼナ先生と英語で遊ぼう、楯先生リトミック、クッキング、親子クッキング、お魚の日、開放デー、ゆうイング訪問、親子読書 おじいちゃん、おばあちゃんボランティア、絵本読み聞かせ

<長久ゆうゆう学童クラブ>

1. 運営について

長久小学校等で放課後、保護者の就労等により保育が必要とする児童に、安心

してのびのびと放課後を過ごせる場所を提供することに努め、児童の健全な育成を図った。対象児童は小学校6年生までであるが、実質登録児童は1年生から3年生までであった。また、定員を上回る登録児童数のため、安心を第一に考え、日々出来ることから活動を進めていった。

2. 学童クラブの実施

- ・開設日数 291日 (H28 288日)
- ・登録児童数 年間延 495人 (H28 474人)、平均 43人 (H28 39.5人)
- ・長期休業利用者数 21人 (H28 23人)
- ・土曜保育利用者数 延 182人 (H28 201人)

3. その他

- ・3年生が主体となり、活動の企画等を進めることで、1・2年生を引っ張ってくれる場面が多くあった。
- ・幼児仕様の体に合っていない和式トイレを洋式化することで使いやすい環境を整えた。
- ・焼きそば・ホットドック等手づくりおやつ(メニュー掲示)や、終業式や行事に合わせての豚汁・カレーライス等昼食を提供することで子どもたちに喜ばれた。手づくりおやつを心待ちにして、喜んで帰ってくる姿が見られた。
- ・各種活動の報告、記録(写真等)の掲示及びお便り発行を積極的に行い保護者への理解を図った。

◇主な活動

4月	新1年生歓迎会、保護者総会
5月	さひめ女性の会おやつボランティア(ホットケーキ)、永生会芋苗植え付けボランティア、夏野菜植え付け(ミニトマト・ピーマン)
6月	農園野菜の初収穫(おやつとする)、避難訓練
7月	笹飾り、夏祭り(3年生主催)、サンチャイルド祭りへ参加
8月	ミニミニ運動会、ゆうイングさわらび訪問、みーもサマースクール参加、保育園誕生会参加、昼食提供(夏休み終了)
9月	さつま芋掘り(保育園児との交流)
10月	収穫祭、避難訓練
12月	避難訓練、神楽祭り、給食提供(二学期終業)
1月	年始めの会
3月	お別れ会、給食提供(終業式)、新1年生保護者説明会